

富栄養化防止に対する取り組み

【目次】

はじめに	第三節 行政の対応
第一章 水環境の現状	第四節 ヨシ植栽における問題点
第一節 水環境についての問題	第五節 今後の展望
第二節 水質汚濁防止行政の動き	第四章 世界湖沼会議の成立と役割
第二章 富栄養化の現状	第一節 湖沼会議の開催
第一節 富栄養化とは	第二節 湖沼会議の意義
第二節 アオコと赤潮	第三節 湖沼会議における市民の参加
第三節 富栄養化による世界への影響	第五章 湖沼会議の問題点と将来像
第四節 富栄養化による日本への影響	第一節 湖沼会議の問題点
第三章 ヨシ植栽による琵琶湖の再生	第二節 湖沼会議における今後の方向性
第一節 琵琶湖の現状	終章 総括
第二節 NPOによるヨシ植栽の取り組み	おわりに

【目的】

水についての問題は、水資源の確保、化学物質の汚染等があるが、富栄養化問題は1960年頃から取り上げられてきたが、現在も解決には至っていない。特に湖沼は水の入れ替わりに時間がかかるため、毎年40カ所以上の湖沼でアオコや赤潮が発生している。

この富栄養化問題に対して、我が国でどのような環境政策が行われているのかを調べ、その問題点を調査するとともに、また市民による富栄養化に対する取り組みについて考察することとした。

【方法】

関連する情報を文献やインターネットで収集し考察した。また、環境保全活動を行うNPOの方の話を聞き、現状と問題点、今後の展望を考察した。

【結論】

現在、富栄養化の要因として最も大きいのは、毎日の私たちの生活によって排水される生活排水であることがわかった。排水中に含まれる窒素・リンは富栄養化を急速に進行させ、湖沼の環境を大きく変化させた。富栄養化の進行は、私たちの日々の生活に注意していくことで未然に防ぐことができる。既に富栄養化が進行した湖沼については、琵琶湖を例にして考察した。滋賀県の環境保全団体は、富栄養化の問題をヨシ植栽により防ぐという活動をしている。ヨシは富栄養化の要因となる水に溶けた窒素やリンを吸収することができる。このヨシの植栽を市民団体だけでなく、行政も重要性を認識し保全に取り組んでいる。また、このような富栄養化への取り組みを世界湖沼会議で報告している。世界湖沼会議は、湖沼についての意見交換を行う場であり、科学者・行政・市民が一体となって湖沼について議論している。湖沼会議は市民的な会議であったのが、現在では各国首脳も参加する国際的な会議として行われるようになった。これにより、一つの地域の集まりから湖沼会議を通じて世界的なネットワークを形成している。

【参考文献】

- 杉木昭典 『水質汚濁：現象と防止対策』（技報堂 1974年）
環境保全対策研究会編 『水質汚濁の基礎知識』（産業環境管理協会 2002年）
びわ湖自然環境ネットワーク 『びわ湖よしよしプロジェクト報告書』（2004年）
若山茂樹 『世界の湖沼保全』（実教出版 1995年）
第9回世界湖沼会議実行委員会編 『第9回世界湖沼会議：開催報告書』（2002年）